

<p>【イベント名】 日本・メキシコ内視鏡カンファレンス</p>	<p>【概要】 「ブルーレーザーイメージング (BLI) による大腸ポリープの視認性の向上」に関する講義を吉田直久先生にいただいた。狭帯域光観察 (NBI) (オリンパスメディカルシステムズ社製) や分光画像処理技術 (FICE) (富士フィルム社製)、BLIといったような画像強調観察法 (IEE) を用いることで、大腸内視鏡検査における病変の検出率が向上していることが、無作為化比較対照試験を含む多くの臨床研究で報告されている。</p>
<p>【期日】 2016.04.21</p>	
<p>【会場】 メキシコ国立自治大学 (メキシコ), 京都府立医科大学 (日本), メキシコ国立工科大学医学部 (メキシコ), シャープマサトラン病院 (メキシコ), 九州大学病院 (日本)</p>	<p>モニターに映し出される4地点の様子。</p>
	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
<p>京都府立医科大学から発表を行うDr. 吉田。</p>	
<p>撮影場所：京都府立医科大学</p>	<p>提示された病理画像のスライド。</p>
	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
<p>提示された内視鏡画像のスライド。</p>	
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>九州大学病院での会場の様子。</p>
<p>メキシコ国立自治大学での会場の様子。</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>